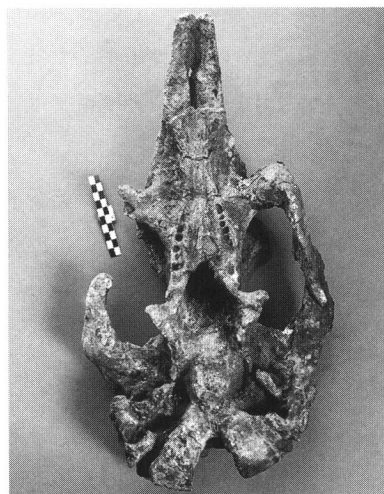


2) カイギユウ (海牛) 化石について

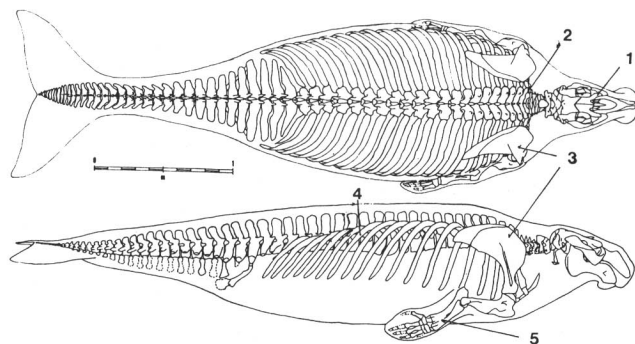
カイギユウ化石が産出したのは、クジラ化石と同じ塩坪層の上部の砂岩からです。ほぼ5m四方から頭骨、^{とうしやくこつ} 橈尺骨、^{けんこう} 肩甲骨 (11図) などがまとまって掘りだされました。おそらく、同一個体のカイギユウのものと思われます。わが国は、欧米に比べ、発見・発掘されているカイギユウ化石は少なく、その産地はまだ10数ヶ所です。しかし、今回高郷から発見された化石には、頭骨など、種類を決定する上で重要な部分も含まれています。ですから、アイヅタカサトカイギユウは、日本のカイギユウの進化の謎を解いたり、欧米のカイギユウと比べる上でも大変貴重な化石です。



a、アイヅタカサトカイギユウの頭骨 (仰向けに見たところ、上が前方。スケールは10cm)



b、アイヅタカサトカイギユウの肩の骨化石 (スケールは10cm)



c、1：頭骨、2：胸椎、3：肩甲骨、4：肋骨、5：橈尺骨

第11図 a、bはアイヅタカサトカイギユウ、cはアイヅタカサトカイギユウの産出した部分を、ヨルダニカイギユウの骨格にあてはめた図